

甲西地区南部 天井川があつまる景観



落合すい道
かつて市之瀬川(坪川)に設けられていたすい道。現在は河川改修によって、市域にあったすべてのすい道が解消され、橋が架けられている。



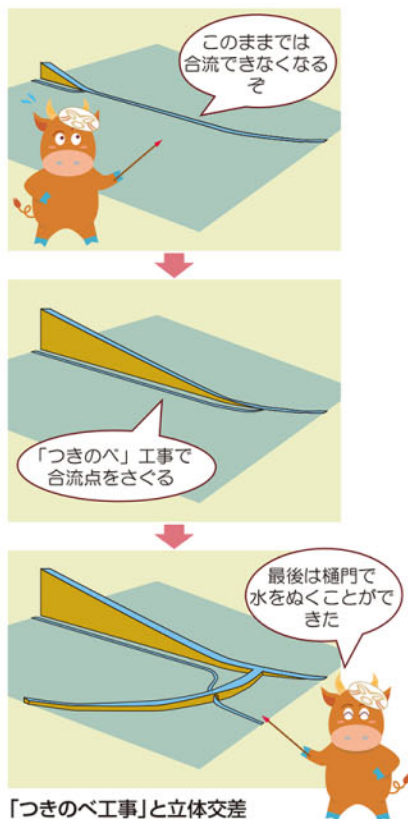
現在の滝沢川と狐川
繰り返された「つきのべ工事」の結果、ふたつの河川が平行に流れている。



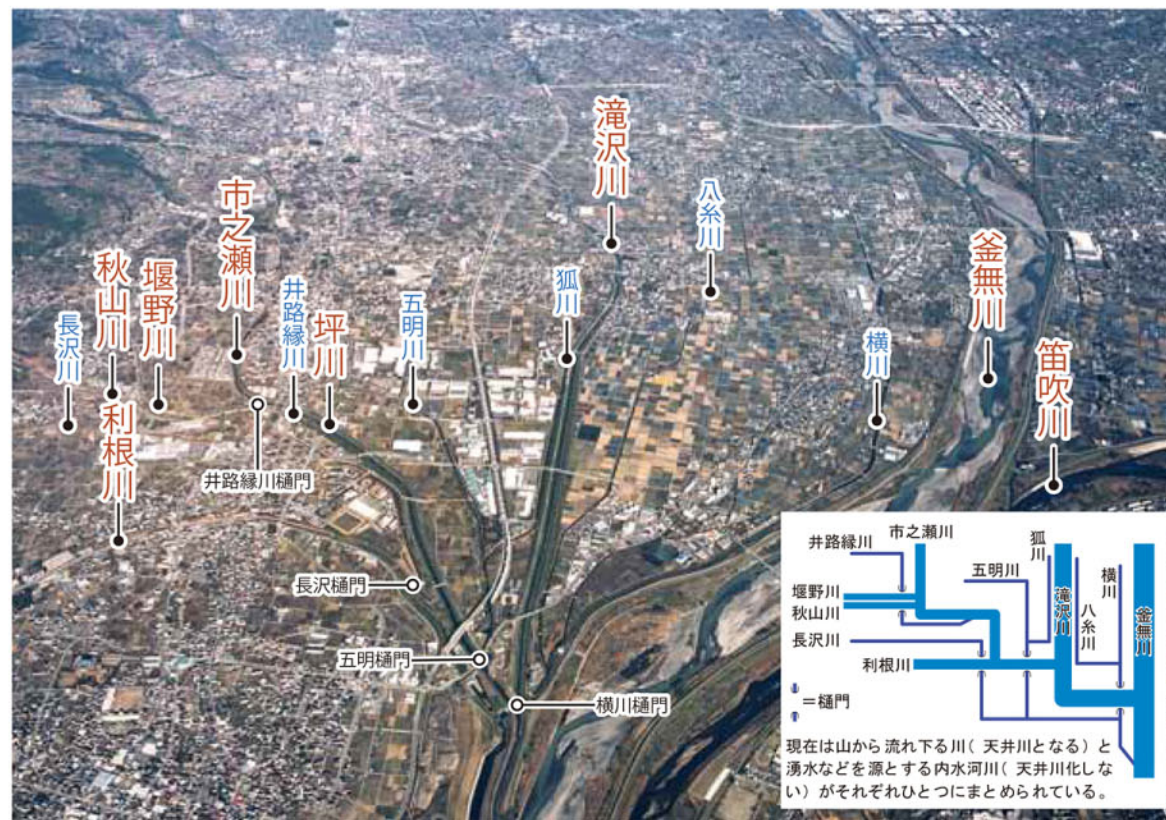
改修前の滝沢川(昭和50年代)
山梨県発行『改良工事記念誌 たきざわ川』より



天井川のできた



「つきのべ工事」と立体交差



甲西地区南部 天井川となる川(茶)や湧水などを源として天井川とはならない河川(青)など、いく筋もの河川が一点が集まって釜無川に合流している。近年まで常習水害地帯だった。

南アルプス市埋蔵文化財ハンドブック

堤の原風景

現在文化財課や図書館をはじめ、各窓口で絶賛頒布中です(無料)。

南アルプス市の人と水とが織りなす歴史や文化をわかりやすく紹介した冊子です。今回ご紹介した天井川があつまる景観や、最新の発掘調査の成果を盛り込み、この度大幅に増補改訂いたしました。



【お問合せ】文化財課 Tel.(282)7269

※1 内水河川…山から流れ下ってきた河川と異なり、湧水などを源とする河川。土砂の運搬力が低く天井川化しない。

※2 河川の立体交差の存在は、既に江戸時代の史料に見ることが出来る。

に、常に川に働きかけてきたことの証であり、人と自然のせめぎ合いが造りだした、きわめて人工的な景観であることがわかります。

甲西地区南部の景観は、南アルプス市に生きた先人が、自然とせめぎ合いながらたくましく生きて、その歴史を我々に教えてくれるのです。

市内に降った雨や湧き出た水が集中する甲西地区南部は、甲府盆地周辺の急しゅんな山々を流れ下ってきた河川があつまる天井川がいく筋も集まり、独特の景観を見せてきました。

たとえば河川の下をくぐる「すい道(トンネル)」です。高くなった川を越える不便を解消するために設けられたすい道が、かつて市之瀬川(坪川)に「カ所、滝沢川には三カ所もありました。

滝沢川と狐川など、ふたつの河川がどこまでも平行に流れているのも天井川が作り出した景観です。これは山から流れ下ってきた川に合流していた内水河川(※1)が、合流先の河川の天井川化が進んだことによって、それまでの場所まで合流できなくなり、合流点を下流に付け替える「つきのべ工事」が繰り返された結果です。

そして最終的には天井川同士が合流によってできた「川の壁」を抜けるため、川の下に川を通す樋門(ひもん)を設ける「河川の立体交差」が考えられました(※2)。

現在この地域には四カ所の樋門があり、近年はそれぞれの樋門に、出水時に樋門を逆流してくる水を遮断し、本川に戻すポンプ(排水機場)が設けられています。

天井川になると、周囲の土地は排水を川に流すことが難しくなるばかりではなく、氾濫するとなかなか水が引かない、水はけの悪い土地となり、長い間人びとを苦しめてきました。自らの耕地や生活を守るために堤防を保守すればするほど、天井川は顕著なものとなり、それがさらに人びとの生活を脅かすというジレンマを抱えながら人びとは暮らしてきたのです。

現在は、抜本的な河川改修により河川の切り下げ工事が行われ、すい道は姿を消し、砂防工事の進展もあって顕著な天井川とその被害は見られなくなっています。しかし、つい数十年前までは天井川の状態や水位に一喜一憂する時代がありました。

天井川があつまる景観は、人々が自らの生活を守るため